

「水産グループ21」がスタート

若手漁業者の英知を結集

水産業の新たな道切り開く

町内の二十一〜四十代の若手漁業者で組織する「水産グループ21」の初会合が六月二十二日、役場三階大ホールで開かれました。低迷する本町の水産業の現状に目を向け、漁業者自らが英知を結集し、将来の漁業の在り方、振興策を考える場として設置されたもので、会員八人が出席し役員選出や本年度の事業計画などを審議しました。

割合は一八%となり、高齢化が一層進んでいます。町の水産業を発展させていくためにも、若い漁業者である会員の皆さんが、この会を通じて自由活発な意見を出し合い、新しいことにどんどん挑戦していただきたい」とあいさつしました。

開会に先立ち、沼崎喜一町長は「本町産業の柱である水産業は、数字から見ても平成十四年の漁業生産高が平成二年の半分以下の三十六億円に落ち込むなど、大変厳しい状況にあります。また昨年四月現在の漁協の正組合員数のうち、四十九歳以下の

この後の議事では、会の目的などを定めた会則を満場一致で承認。役員を選出も行われ、会長に上林正幸さん（長崎・26）を選出しました。引き続き本年度の事業計画と収支予算を審議。

具体的な事業内容については、今後開催される会合で検討していくことになりました。

漁業の町として発展してきた本町ですが、近年、イカやサケの不漁、水産物の価格低迷、漁業者の高齢化などさまざまな問題に直面しています。

こうしたことから「水産グループ21」は、平成十三年から三年にわたり活動してきた「水産・21世紀会議」の成果を踏まえ、漁業の未来を担う人づくりをさらに推進するため組織されたものです。会員の皆さんは、水産振興に関する情報収集や調査、国内外の先進地視察研修など将来の漁業の在るべき姿を模索しながら、水産業の発展に向けて二年間取り組んでいくこととなります。



カキの収穫作業の様子



「水産グループ21」の会長
上林正幸さん（長崎・26歳）

養殖漁業を始めて8年目になりますが、水産業を取り巻く環境は厳しい状況にあります。自分自身も明確なビジョンが見えないまま現在に至り、このままでは山田の漁業は衰退の一途をたどるだけではないかと常々感じています。この会を通じて、先輩会員の方々と共に漁業の進むべき方向や振興策を見だし、町の水産業発展のため頑張りたいと思います。先輩漁業者や町民の皆さんのご協力をお願いします。



役員選出や本年度の事業計画を審議した初会合